

平成30年度第1回高山市環境審議会 議事要旨

日 時：平成30年6月1日（月） 午後1時30分～3時08分

場 所：高山市役所 地下市民ホール

出席者：梶井 正美（★会長 高山市民憲章推進協議会）

小野木三郎（★副会長 学識経験者）

大森 清孝（学識経験者）

下通 浩子（学識経験者）

圓田 辰吉（学識経験者）

松井多美子（高山商工会議所（女性会））

岩本 洋子（高山市農業委員会）

寺田 俊明（荘川町まちづくり協議会）

中川 正（高山市森づくり委員会）

河渡 正暁（高山市快適環境づくり市民会議）

今井久和子（高山生活学校）

都竹 雅弘（中部電力（株）高山営業所）

森口 弘樹（濃飛乗合自動車（株））

川田 裕司（岐阜県（飛騨県事務所環境課）） 計14名

欠席者：岡田 賛三（ひだ自然エネルギー協議会） 計1名

事務局：副市長 西倉良介、環境政策部長 大平哲也

環境政策推進課 課長 清水一徳、係長 野首勇人、山郷三昭  
担当 松場実千雄

生活環境課 課長 小林一正、担当監 清水弘一  
係長 垣根和宏、牧ヶ野英明

議 事：1 開会

2 副市長あいさつ

3 委員紹介

4 議事

(1) 平成30年度の環境施策について

5 その他

(1) 生物多様性等に関する学習会の開催について

(2) ごみ処理の現状について

6 閉会

配付資料：資料 平成30年度の環境施策について（高山市環境基本計画体系図）ほか  
参考資料 特定外来生物防除の取り組みについて ほか

議事要旨：

1 開会（午後1：30）

大平環境政策部長進行

2 副市長あいさつ

西倉副市長

3 委員紹介

大平環境政策部長から岩本委員、下通委員を紹介。その後、各委員あいさつ。

4 議事

(1) 平成30年度の環境施策について

事務局（清水環境政策推進課長、山郷環境政策推進課係長、清水生活環境課担当監）：資料説明

（小野木副会長）

- ・外国の方はまちの中に緑が少ないと感想を持つ方が多い。ブナとイヌブナが同時に見られるのは日本だけなので、白山口には駅西の空間のところにブナとイヌブナの林を作ったらどうか。乗鞍口も何か飛騨山脈を思えるような景観まちづくりを考えてほしい。
- ・市の環境基本計画の基本目標に「自然との共生」を掲げているが、具体的な施策を見ると自然公園に関するものは五色ヶ原に偏っている。
- ・五色ヶ原に新ルートを作るのは、お客を増やすための観光事業に思えなくもない。乗鞍にもっとお客に来てもらいたいのであれば、五色ヶ原に新ルートを整備するよりも、昔からある子ノ原、野麦、阿多野郷にある登山道や、新しく平湯にできた登山道はあまりに長すぎて遠いので平湯大滝から登っていく旧道を整備した方が効果的ではないか。
- ・乗鞍高原の長野県側の登山道を剣ヶ峰に向かって若い人たちがよく歩いて登っている。昔からある登山道を整備すれば、岐阜県側からも登る人が増えてくるので、そういう人たちを掘り起こせばいいと思う。
- ・お客を集めるため、五色ヶ原ばかりではなく御岳の整備も幅広くやってほしい。
- ・生物多様性たかやま戦略には、希少動植物の調査をするということが書いてあるだけで、調査費もなく希少動物の調査をしたことがないと思う。城山公園はかつてオシドリの繁殖地だったがなくなった。市内のオシドリの生息調査を試みたらどうか。

（大森委員）

- ・特定外来生物の防除奨励金制度が改善されたことは、とてもいいことである。
- ・特定外来生物は、オオハンゴンソウとオオキンケイギクの外来植物だけではなく、農業用ため池のブラックバス、オオクチバス、ブルーギルの外来魚も気にするべきである。ため池に外来魚が自然に分布することはなく、必ず人が入れているはずである。ため池から水がオーバーフローして外来魚の稚魚が一緒に出てしまえば、宮川にも入ってしまうおそれがあるので、そうなる前に何年かおきに秋の稲刈り後にため池の水を抜くことを考えた方がいいのではないか。
- ・ごみ処理施設は必要なので作らなければいけないが、高山市の人口推移を見ると、合併してから約1万人減っており、これからも人口が減っていく傾向である。人口が減少すれ

ば可燃ごみの排出量、埋め立てごみの排出量は確実に減っていくはずなので、今後どの程度の規模の施設がいるのか、数字で判断できる資料として可燃ごみ排出量や埋め立てごみの排出量の推移の資料があるといい。

(小野木副会長)

- ・オオハンゴンソウ、オオキンケイギクだけが悪いわけではなくて、何でも外来生物がどんどん入ってくるという状況があるということをも人々に勉強してもらおうということが重要である。
- ・今はセイタカアワダチソウが飛騨にどんどん入ってきている。子どもと一緒に情報を集めて、分布状況を毎年調べていくとどう広がったか分かるので外来植物に関心が向くと思う。

(河渡委員)

- ・熱供給事業を行っている国府のしぶきの湯、荘川の桜香の湯の木質バイオマスボイラーの稼働状況を教えてほしい。
- ・社会福祉法人である高山八寿会が運営する養護老人ホームの向陽園と、清徳会が運営する特別養護老人ホームの豊楽園にごみ処理施設で生じた余熱が配管を通じてエネルギーとして利用されていると思うが、現在の状況と新しいごみ処理施設ができるとこれまでの仕組みは今後どのようになるのか教えてほしい。

(松場環境政策推進課担当)

- ・国府のしぶきの湯、荘川の桜香の湯ともに木質バイオマスボイラーは順調に稼働している。

(小林生活環境課長)

- ・向陽園と豊楽園には現在も蒸気を供給し、お湯や暖房に使っていただいている。現施設がある間は余熱を有効利用するため継続して使っていただく予定である。
- ・新しいごみ処理施設でのエネルギーの利用方法は未定だが、現施設では発生する蒸気量から平均して1割から2割くらいしか熱を利用していないので、さらに余熱を有効利用できるように考えている。

(梶井会長)

- ・ごみ処理施設は、久々野クリーンセンター解体後は、高山には1つだけになるのか。

(小林生活環境課長)

- ・資源リサイクルセンターと久々野クリーンセンターは平成37年度までは稼働させ、平成38年度からは新しいごみ処理施設1つだけになる。

(大森委員)

- ・ごみ焼却施設による環境影響調査では色々な調査をやっていただくことになっているが、動植物や猛禽類の調査は意外とコストがかかる。
- ・国土交通省高山国道事務所では中部縦貫自動車道整備のためかなり広い範囲で動植物や

猛禽類を調査しており、依頼すればそのデータは市でも利用可能なはず。国と市で二重に調査する必要はないので、なるべくコストをかけず調査を実施してもらいたい。

## 5 その他

### (1) 生物多様性等に関する学習会の開催について

事務局（松場環境政策推進担当）：資料説明

（今井委員）

- ・外来植物はある程度繁殖すると自然淘汰されることはあるのか。

（小野木副会長）

- ・外来植物も自然淘汰され、消えていく可能性はあると思う。
- ・雑草は、刈り取る高さに応じて生き残る戦略を進化させており、防除できると安易に思わない方がいい。
- ・原山で萱を刈ったらササユリ、オミナエシ、キキョウが少しずつ戻ってきているので、確実に戻るようにするためには積極的に採草し、合掌造りの屋根葺きのために持っていただくのがいいと思う。
- ・ギフチョウなど動物にしても植物にしても昔からの農業や林業をやめたことによって絶えていくものもある。生物多様性を脅かす第2の危機とか言われているが、農林業を元気にすることが生物多様性を保全することに繋がっていくと思う。

（梶井会長）

- ・学習会は委員の皆様にごできるだけ参加していただきたい。

### (2) ごみ処理の現状について

事務局（清水生活環境課担当監）：資料説明

（意見なし）

## 6 閉会（午後3：08）